

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670600214
法人名	有限会社 精 祥
事業所名	グループホーム はまゆう
訪問調査日	平成 22 年 3 月 23 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4670600214
法人名	有限会社 精 祥
事業所名	グループホーム はまゆう
所在地	鹿児島県阿久根市脇本6778番地39 (電 話) 0996-75-1122

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年4月24日

【情報提供票より】(平成22年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,350 円 (維持費)	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇本病院 ・ よしもと歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは東シナ海に面した脇本海水浴場近くであり、前は海、後ろはタバコ畑が続く自然豊かなゆったりとした環境の中にある。地域密着型サービスの理念のもとに、地域との交流を進めながら、周囲の民家から少し離れているため、運営推進会議を通して地域の消防団の協力が得られ、ホームの見学、災害時の地域連絡網の作成がなされ協力体制を頂いているなど、地域に根ざしたホーム作りを進めている。また、利用者の身体的機能の低下により、見守りの必要な方が多くなったため食事作りと入浴介助をユニット交互で行い協力しあうなど、利用者が安心してのびのび暮らせるように工夫している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の職員を育てる取り組みでは、事業所での年間研修計画を立て行っている他、毎月看護師を中心にした勉強会、各委員会による法人内研修などに取り組んでいる。外部研修は、管理者が適任者を選んでいる。プライバシーの確保については、記録簿を入れている箱に目隠しをすると共に、事務所を保管場所にするように改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に白紙の評価表を渡し、それぞれが日勤帯で話し合ったり、夜勤時に意見を記入したものを管理者がまとめている。職員は自己評価を通してケアを振り返る機会となり、普段からやっているとと思っていたことも、もっとできることがあったと反省と気づきになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的開催している。事業所から利用者の状況、行事の実施、行事予定の報告、事故報告を行っている。地域代表から、消防訓練に近隣に参加の呼びかけや消防団の緊急連絡網を活用したらという提案や、市担当者からは新型インフルエンザの情報を得るなど、出された意見をサービスに繋げられるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や苦情を表せる機会は、年1回の家族会や運営推進会議、面会時である。出された意見や要望は、運営者に報告し指示を仰いだり、職員間で共有し話し合い運営に反映させている。家族の面会時や電話等で管理者不在でも共通した対応ができることを望みます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板等で地域の行事などを確認している。花見や敬老会の誘いはあるが、今は参加できる利用者がいない。踊り、三味線や尺八、掃除のボランティア、中学校の職場体験の受け入れ、学校の運動会の見学や吹奏楽コンサートにも参加し交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳・自立・安心・環境の4本柱をたて、馴染みの環境で一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように、開設当初に職員と話し合った事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝2ユニット合同の朝礼で、理念と職員心得を確認し意識してからケアを行うようにしている。また、事務所にも掲示し、生活場面で意識できるようにとくんでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板などで地域の情報を得ている。地域の花見や敬老会などの誘いがあるが、身体機能の低下もあり座っていることができず利用者は参加していない。中学校の職場体験や地域の踊りや三味線のボランティアの受け入れ、学校の運動会の見学や吹奏楽演奏を聴きに出かけるなど交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎で白紙の用紙に、職員が日勤帯や夜勤時などに意見を記入したものを管理者がまとめている。職員は自己評価を通して、気づきとケアの振り返りになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的で開催している。事業所の報告後にメンバーの意見交換が行われている。区長さんの声かけで民生委員の参加ができたり、連絡をつけてくれた消防団の方が、ホームを見学し連絡網に加えてもらうなど、サービス向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは顔馴染みとなり、様子を見に立ち寄ってくれるため、情報を交換し相談したり、アドバイスをもらうなどしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月毎に「はまゆうだより」に行事の写真などを掲載し発行している他、3ヶ月に1回、担当職員が利用者の日頃の様子を書いた報告書を送っている。また、毎月金銭出納帳をコピーして郵送し、面会時に確認のサインをもらっている。職員の異動等については面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や運営推進会議、行事に招待した時や面会時等が意見や苦情を表せる機会となっている。出された意見や要望は職員も共有し、必要ならば話し合い運営に反映させている。面会時や電話等で管理者不在の場合の対応方法を共通させることを望みます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動やユニット間での異動もあるが、食事作りやレクリエーションなど合同で行う機会が多くあり、利用者との関係も築かれているため、異動等による影響は見られない。新入職員は1ヶ月をかけて研修してもらうように予定をたてている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の課題であった為、事業所内での年間の研修計画をたて、毎月研修会をしている。時には、看護師による勉強会もしている。消防、学習、接遇委員会の勉強会も法人と合同で行っている他、年2回の法人内事例発表にも参加する機会を持ち職員の教育を大切にしている。。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水・川薩地区連絡協議会に参加している。同法人のグループホームと毎月研修計画を立てお互い行き来しながら行っている他、他のホームとの交流はあるが職員の交流までには至っていない。	○	同法人や近隣のグループホームとの交流はあるが、職員が交流しホームのよさを知る場は少ない。職員が見学や交流を行うことで、自分達が課題としている問題の解決や良いアイデアを取り入れ、サービスの質を向上させていけるような機会を作られることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらおうようにしている他、病院や施設からの場合は、職員が出向いて関係を築いている。入居後は、家族の面会を多くしてもらするなど安心してもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を活かして、門松作りや郷土料理、畑の作り方を教わる場面を多くつくり、職員は必ず感謝の言葉を伝えている。入浴時や午後7時の補水時には、利用者とのコミュニケーションがよくとれるので、昔の話や苦労話を聞くことで人生の参考にするなど支え合う関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の生活の様子を観察しながら、また、会話の中から思いを把握するように努めている。直接思いを伝えられない方には、本人にいくつかの選択肢を与えて決定してもらうなど工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に来られる家族は、本人、家族、職員、ケアマネで話し合い、必要であれば主治医の意見、看護師のアドバイスなども取り入れながら、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。参加できない家族にも、電話等で意見を確認して計画書に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとの担当職員が、月1回モニタリング及びアセスメント用紙に記入したものをもとに全職員で検討し、見直しを行っている。状態に変化が見られた場合は、家族や関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を職員として配置し、日々の薬や健康管理を行い、病院受診の支援もしている他、協力病院からの往診にも対応し医療連携体制を充実させている。また、特別支援として墓参りや自宅への外出支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を継続している。病院受診には看護師ができるだけ同行し、必要な情報提供を行い適切な医療がうけられるように支援している。受診結果については、特別な変更があればすぐに家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての指針を作成し、家族に説明し同意書も得ている。今までに看取りの経験もあり、家族や主治医を交えた話し合いもその都度行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室の声かけやトイレ誘導について職員会議等で勉強しており、不適切な言動を目にした時など管理者はその場で指導しているが、接遇教育を徹底させたいと考えている。記録物の保管の仕方は改善されている。	○	認知症についての理解を深めたうえでのプライバシーや接遇についての勉強会を行われることを希望します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間は決めてあるが、その方の体調やペース、希望に合わせた支援を行っている。お茶の時間には必ず黒砂糖を一緒に出す方、夕食後に毎日小さなパンを一つだけテレビを見ながら食べる方など、今までの習慣を継続した生活ができるように支援している。		

鹿児島県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれの力量に応じて、野菜を切ったり、皮をむいたり、テーブル拭きや配膳、下膳、お茶を入れて配るなどの手伝いをしている。食事前には、口腔体操を行い食事への関心を持たせ、職員と同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日の入浴は休みにしているが、ユニット毎に月水金、火木土となっているため、入浴日でない場合でも希望があれば、隣のユニットで入浴することもできる。順番にこだわる方には、希望を優先している他、入浴剤などを入れて気分良く入ってもらえるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる事、手すり拭きやテーブル拭き、野菜の下ごしらえや洗濯物たたみ、草取りなどを役割とし、楽しみごとは季節ごとの行事の他、カラオケや駅伝の応援、つる見学などで、ドライブや買い物、散歩など外にでることで気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関横の花壇やホーム裏手にある畑には、季節の花や野菜が植えられるため、天気の良い日には草を取ったり、収穫したり、ベランダや庭でお茶や食事、日向ぼっこなど楽しんでいる。また、買い物やドライブなど、希望があれば出かけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを取り付け対応している。玄関を出るとすぐ風除室になっていて、広くベンチもあるため、一人で外出しようとしてもそこで止まることもある。それでも外に行きたい方には、職員と一緒にについて行っている。もし、一人で外出しても地域には協力体制をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下で年2回の消防訓練と毎月自主避難訓練を行っている。スプリンクラーや自動通報装置も設置している他、地域との連携もできており、消防団にホームを見学してもらいアドバイスを受け、移動手段を三種に色わけし各居室に印をつけている。		

鹿児島県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はチェックし記録している。栄養のバランスは、法人の管理栄養士に見てもらいアドバイスを受けている。食事形態も一口大や軟らかくなど利用者の状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に植えた木を囲むように回廊式になっている。ダイニングテーブルが2つと、テレビを囲むように4つのソファがおかれ、それぞれが好きな定位置で会話やテレビを楽しんでいる。海が近いので冬が寒いので、室温には気をつけている。壁には菜の花のちぎり絵、玄関にもくれんの花が活けられ季節が感じられるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洗面所とクローゼット、ベットが備え付けとなっている。利用者は好きなテレビ、使い慣れたタンス、椅子、棚などを持ち込み、大切な家族の写真を置いて自分らしく暮らせるような居室としている。		